海外の話題

日本秋祭 IN 香港

農林中央金庫　香港駐在員事務所長　梶山　泰

本誌が発行される頃は，まだ梅雨も明けておらず，夏もこれからという時期にもう秋祭りとは随分，気が早いなと思われる方も多いと思うが，学校の文化祭でも村祭りでも，「祭」と付くものの準備には意外と時間が掛かるものである。今回の開催が初めてとなる本稿の秋祭についても，それなりの数の在香港日本人が動きだしており，日系現地法人の方々と最近お会いすると「秋祭，どうします？」とか，「秋祭，準備進んでいますか？」という質問が挨拶代りに使われるようになってきている。

地域活性のために始まった祭の多くが，一寸変わった村長と熱血漢溢れる村役場の若手職員のアイディアを発端としているが如く，当地香港での祭りも，良い意味で「大使らしくない大使」と「日本国の将来を担う若手総領事館員」の熱意で始まり，村の長老達（日系現地法人の社長さん達）を説得，今回の開催に至っている。祭りの趣旨については，2015 年度の香港からの来日者数がのべ 150 万人を超え，人口約 730 万人の香港人のうち，5 人に1人が観光・ビジネスで日本を訪れる中，より一層，食を含む日本の文化・自然を理解して貰い，更なる香港からの来日者数の増加，日本からの農林水産物の輸出拡大に繋げようということである。具体的なアクションとしては，在香港日本国総領事館が募集する共通ロゴマークを使用しつつ，各日系企業，団体が芸術，音楽，スポーツ，食，自然科学，金融等，日本に関する幅広い分野のイベント開催を 10 月～ 11 月の 2 か月間に集中させ，香港の街を盛り上げようというものである。
（イベントの詳細については，在香港日本国総領事館ホームページにある開催要領：http://www.hk.emb-japan.go.jp/jp/docs/Event_JapanAutumnFestival_event_application_guideline_jp.pdf をご参照頂きたい）。

特別区とは言え，中国の一部である香港で，「日本ジャック」みたいなことをして大丈夫なのかとご心配する方もいらっしゃるかも知れないが、そこは上記のとおり，香港人には，「親日家」の方が多い。加えて，10 月初めの国慶節から 12 月のクリスマスシーズンまで特に目立ったイベントがなく，足元，中国本土の経済減速の影響を受けて減少傾向が続いている本土観光客を呼び戻すには，何か特別なものが必要である。今回の秋祭りがこの役割を担ってくれればという期待感もあり，香港特別区政府も協力を申し出てくれているそうである。

斯く言う当事務所も日本の農林水産物の香港への輸出拡大に向け，秋祭りでも何か出来ないかと駐在員，現地採用職員（香港人）で無い知恵を出し合い，云々唸っているところである。「一休さん」のように良いアイディアが「チン」と浮かべば良いのだが，それほどのお頭は持ち合わせていない。しかしながら体に阿波（徳島）の血が流れているためか、「踊る阿呆に、見る阿呆。同じ阿呆なら，踊らにゃ，損，損」と結構楽観的に考えている。祭りは今年始まったばかりで，今後毎年やることでより良いものになると信じており，読者の皆様から良い知恵を頂戴できるのであれば今年と限らず，来年でも頂きたい。また，今年無理でも来年でも再来年でも一緒に「踊ってくれる」方がいらっしゃれば，これほど嬉しいことはない。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます